

## 医療倫理とヒューマニズム

責任者・コーディネーター	生体防御学分野 大橋 綾子 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床薬剤学分野、薬剤治療学分野、薬物代謝動態学分野、臨床医化学分野、神経科学分野、地域医療薬学分野、生体防御学分野、薬学教育学分野、人間科学科文学分野、人間科学科心理学・行動科学分野、外国語学科英語分野、臨床遺伝学科、附属病院		
対象学年	4	区分・時間数	講義 25.5 時間
期間	通期		
単位数	2 単位		

### ・学習方針（講義概要等）

「医療倫理とヒューマニズム」では、現代医療が直面している倫理的な問題（インフォームドコンセント・告知などの基本的諸概念、移植医療・ターミナルケア等の現状、脳死・安楽死・遺伝子診断等の生命の判定に関わる指針など）をより具体的に理解し、日本の医療の現状に対して自分なりの見解や心構えをもつことを目指す。更に、様々な医療従事者と共に、患者や生活者の気持ちに配慮したチーム医療を実現するために、求められる薬剤師の役割・態度について学習する。また、生命科学の著しい進展と社会の変化にも応じられる薬剤師になるために、先端医療・医薬品販売・医療行政・薬害についても生命・医療倫理の観点から捉え直し、生涯学習の基本となる知識を習得する。得られた知識を基に、課題テーマについて、倫理或いはヒューマニズムの観点から自分の意見を表現する。

### ・教育成果（アウトカム）

医療と医薬品を巡る社会的動向を学ぶことにより、これらに関心を抱き理解する意欲が高まる。また、薬の関わる社会問題について考え、薬の専門家としてとるべき態度を理解できる。

地域医療に貢献する薬剤師や実務家教員の体験を聴くことにより、患者や生活者の安全を守り、信頼される薬剤師となるために必要な心構えが意識できるようになる。また、具体例を通じて行動科学理論を学ぶことにより、薬剤師にふさわしい行動をとるための考え方や手法が身につく。

更に、患者や薬害被害者及びその家族の方々の声を聴くことや、生や死と向き合う人々の医療への期待を学ぶことにより、人権を尊重し人々の多様な価値観を受容できる医療人としての基本姿勢が身につく。

最後に、生命の尊さと医療の関わりに関する課題をグループ討議することにより、倫理或いはヒューマニズムの観点から自らの考えを表現するとともに、多様な考えを共有できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー：1,5,8,9)

### ・到達目標（SBO）

1. 薬剤師として求められる基本的な資質について説明できる。
2. 医療における薬剤師の使命や倫理について概説できる。
3. ラポールを形成し、患者満足度とアドヒアランスを高めるために有効な行動科学理論を説明できる。(☆)
4. 薬の専門家と地域社会の関わりを説明できる。
5. 東日本大震災で果たした薬剤師の地域社会における役割を説明できる。(☆)

6. 災害時のこころの反応を理解し、適切な対応を述べるができる。(☆)
7. 喪失と悲嘆の感情を理解し、適切な対応を述べるができる。(☆)
8. 対人援助専門職による多層的な支援活動を理解し、各層での必要なかわりを述べるができる。(☆)
9. ナラティブメディスンの概念とその背景を概説できる。(☆)
10. 死に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる。医療の進歩に伴う生命観の変遷を概説できる。
11. 誕生に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる。
12. 患者やその家族の持つ価値観の多様性を認識し、柔軟に対応できるように努力する。
13. 医療とその進歩に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる。
14. 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)
15. 医療人が患者の信頼を得ることの重要性を説明できる。(☆)
16. 病気が患者に及ぼす心理的影響を説明できる。
17. 患者やその家族の気持ちに配慮することができる。
18. 患者に寄り添うために薬剤師ができることについて討議できる。(☆)
19. 患者に提供できる社会資源について説明できる。(☆)
20. 医療過誤の現状と背景について説明できる。
21. 医療人に対する市民の期待に目を向ける。(態度)(☆)
22. 医薬品の供給・販売が社会に及ぼす影響に目を向ける。(態度)
23. 医薬品に関わる社会問題と現状を説明できる。(☆)
24. 医薬品の製造や関わる医療行政が社会に及ぼす影響に目を向ける。(態度)
25. 医薬品の製造を担う企業の倫理・医薬品の安全性の確保を担う行政の役割を説明できる。(☆)
26. 薬害について具体例をあげ、その背景を説明できる。
27. 薬害の被害者や家族の気持ちに配慮することができる。
28. 薬害に薬剤師としてどのように向きあえるかを討議できる。(☆)
29. 薬剤師に対する社会のニーズを収集し、討議できる。(☆)
30. 医療倫理やヒューマニズムに関する他者の多様な考えを理解し、共有できる。(☆)
31. 生命の尊さと医療の関わりについて討議できる。(態度)

・ 講義日程

(矢) 東 104 1-D 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/4	水	2	生体防御学分野 臨床薬剤学分野	大橋 綾子 教授 工藤 賢三 教授	「ガイダンス・薬学教育で重要視される倫理とヒューマニズム」 「医療現場における医療倫理 ～患者の安全を守る薬剤師の心構え」 1. 薬剤師として求められる基本的な資質について説明できる。 2. 医療における薬剤師の使命や倫理について概説できる。
4/12	木	3	人間科学科心理学 行動科学分野	相澤 文恵 教授	「薬剤師のための行動科学」 1. ラポールを形成し、患者満足度とアドヒアランスを高めるために有効な行動科学理論を説明できる。 (☆)

4/18	水	2	生体防御学分野	中田 義仁 非常勤講師	<p>「地域社会における医療倫理 ～東日本大震災とその後の薬剤師の役割」</p> <p>1. 薬の専門家と地域社会の関わりを説明できる。</p> <p>2. 東日本大震災で果たした薬剤師の地域社会における役割を説明できる。(☆)</p> <p>(講師 中田義仁 岩手県薬剤師会常任理事)</p>
4/27	金	2	人間科学科心理学 行動科学分野	藤澤 美穂 助教	<p>「地域医療とヒューマニズム ～東日本大震災を経験した人々のこころを知る」</p> <p>1. 災害時のこころの 反応を理解し、適切な対応を述べることができる。(☆)</p> <p>2. 喪失と悲嘆の感情を理解し、適切な対応を述べることができる。(☆)</p> <p>3. 対人援助専門職による多層的な支援活動を理解し、各層での必要なかわりを述べることができる。(☆)</p>
5/16	水	3	外国語学科英語分野	柳谷 千枝子 助教	<p>「薬剤師のためのナラティブメディスン ～病める人々のこころを考える」</p> <p>1. ナラティブメディスンの概念とその背景を概説できる。(☆)</p>
5/16	水	4	人間科学科文学分野	平林 香織 教授	<p>「死生学とヒューマニズム ～死と向き合う人々のこころを知る」</p> <p>1. 死に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる。</p>
5/23	水	2	臨床遺伝学科	山本 佳世乃 助教	<p>「先端医療と医療倫理 (1) 生殖補助医療、出生前診断と遺伝カウンセリング ～生を求める人々のこころを知る」</p> <p>1. 誕生に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる。</p> <p>2. 患者やその家族の持つ価値観の多様性を認識し、柔軟に対応できるように努力することができる。(☆)</p>
5/30	水	2	臨床医化学分野	那谷 耕司 教授	<p>「先端医療と医療倫理 (2) 移植医療と再生医療」</p> <p>1. 医療とその進歩に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる。</p> <p>2. 移植医療の原理, 方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関</p>

					する倫理的問題点を概説できる。 (知識・態度)
6/13	水	3	臨床薬学分野 地域医療薬学分野 生体防御学分野	工藤 賢三 教授 松浦 誠 准教授 大橋 綾子 教授	「患者の信頼を得るために（１）病 とともに生きる患者の声を聴く」 1. 医療人が患者の信頼を得ることの 重要性を説明できる。（☆） 2. 病気が患者に及ぼす心理的影響を 説明できる。 3. 患者やその家族の気持ちに配慮す ることができる。
6/13	水	4	臨床薬学分野 地域医療薬学分野 地域医療連携センター事務室	松浦 誠 准教授 工藤 賢三 教授 青木 慎也 室長	「患者の信頼を得るために（２） SGD」 1. 患者に寄り添うために薬剤師がで きることについて討議できる。 （☆） 2. 患者に提供できる社会資源につ いて説明できる。（☆） (講師 岩手医科大学附属病院 青 木慎也 地域医療連携センター事務 室長)
6/20	水	2	生体防御学分野	大橋 綾子 教授	「医療報道にみる医療人に求められ る倫理とヒューマニズム～医療過誤 取材を通じて」 1. 医療過誤の現状と背景について説 明できる。 2. 医療人に対する市民の期待に目を 向ける。（態度）（☆） (講師 読売新聞東京本社 高梨ゆ き子 医療部次長)
6/27	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	「医薬品と医療倫理（１）医薬品販 売」 1. 医薬品の供給・販売が社会に及ぼ す影響に目を向ける。（態度） 2. 医薬品に関わる社会問題と現状を 説明できる。（☆）
7/4	水	4	薬物代謝動態学分野	小澤 正吾 教授	「医薬品と医療倫理（２）医薬品 製造」 1. 医薬品の製造や関わる医療行政が 社会に及ぼす影響に目を向ける。 （態度） 2. 医薬品の製造を担う企業の倫理・ 医薬品の安全性の確保を担う行政の 役割を説明できる。（☆）
9/20	木	1	地域医療薬学分野	高橋 寛 教授	「薬害とヒューマニズム（１）薬害 の現状と問題点」

					1. 薬害について具体例をあげ、その背景や問題点を説明できる。
9/21	金	3	地域医療薬学分野 生体防御学分野	高橋 寛 教授 大橋 綾子 教授	「薬害とヒューマニズム（2）薬害被害者の声を聴く」 1. 薬害の被害者や家族の気持ちに配慮することができる。（態度）
9/21	金	4	地域医療薬学分野 薬学教育学分野	高橋 寛 教授 奈良場 博昭 教授	「薬害とヒューマニズム（3）SGD」 1. 薬害に薬剤師としてどのように向きあえるかを討議できる。（☆）
9/27	木	1	生体防御学分野 神経科学分野 地域医療薬学分野	大橋 綾子 教授 駒野 宏人 教授 高橋 寛 教授	「総括・レポート発表会」 1. 医療倫理やヒューマニズムに関する他者の様々な考えを理解し、共有できる。（態度）（☆） 2. 生命の尊さと医療の関わりについて討議できる。（態度）（☆）

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スタンダード薬学シリーズ II-1 薬学総論I 薬剤師としての基本事項	日本薬学会 編	東京化学同人	2015
参	薬学生のための医療倫理	松島哲久 編	丸善	2010
参	薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム	日本ファーマシューティカル コミュニケーション	羊土社	2011
参	知っておきたい薬害の教訓— 再発防止を願う被害者からの声	医薬品医療機器レギュラトリー サイエンス財団 編	薬事日報社	2012
参	ヒューマニティコミュニケーション学習	小林 静子、江原 吉博 編	南江堂	2009
推	いのちの砦～「釜石方式に訊け」	芦崎 治 著	朝日新聞出版	2015
推	大学病院の奈落	高梨 ゆき子 著	講談社	2017
推	災害時のこころのケア サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引き	アメリカ国立子どもトラウマティック・ストレスネットワーク、アメリカ国立PTSDセンター 著 兵庫県こころのケアセンター 訳	医学書院	2011

・ 成績評価方法

毎回の確認小テスト（主に記述式）や感想文(約 85%)、選択式レポート課題や SGD への取り組み（約 15%）の合計で総合的に評価する。選択式レポート課題については、ガイダンス時に開示する。またレポート課題のフィードバックや総評は、発表会などにおいて行う。

・ 特記事項・その他

本学薬学部の新カリキュラム編成に伴い、一昨年度までの「医療倫理学」から内容を変更し、「ヒューマニズム」に関する内容が年々追加されている。本年度より2単位科目となり、ナラティブメディスン（物語に基づく医療）、医療過誤、東日本大震災の心のケア、の三項目の内容を充実させている。

事前学修（予習・復習）については特に予習を必要とはしないが、各自復習や振り返りを行うことが必要である。また、講演者への感想文や選択式レポート課題に取り組む時間が必要である。

回ごとに 成績評価に関わる確認小テストや感想文が出される。欠席した場合には担当教員もしくは科目コーディネーターまで、すぐに自ら連絡すること。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
	コンピューター	1	講義資料の映写、プレゼンテーション